

グラバー

長崎大学名誉教授
夏苴豊
Natsukari Yuraka



イッテンアカタチ
Acanthoepola limbata

画家：萩原魚仙
本州中部から台湾に分布。100m位の深さや砂泥底にすみ、体長約50cmに達する。グラバー図譜で最初に描かれた魚。



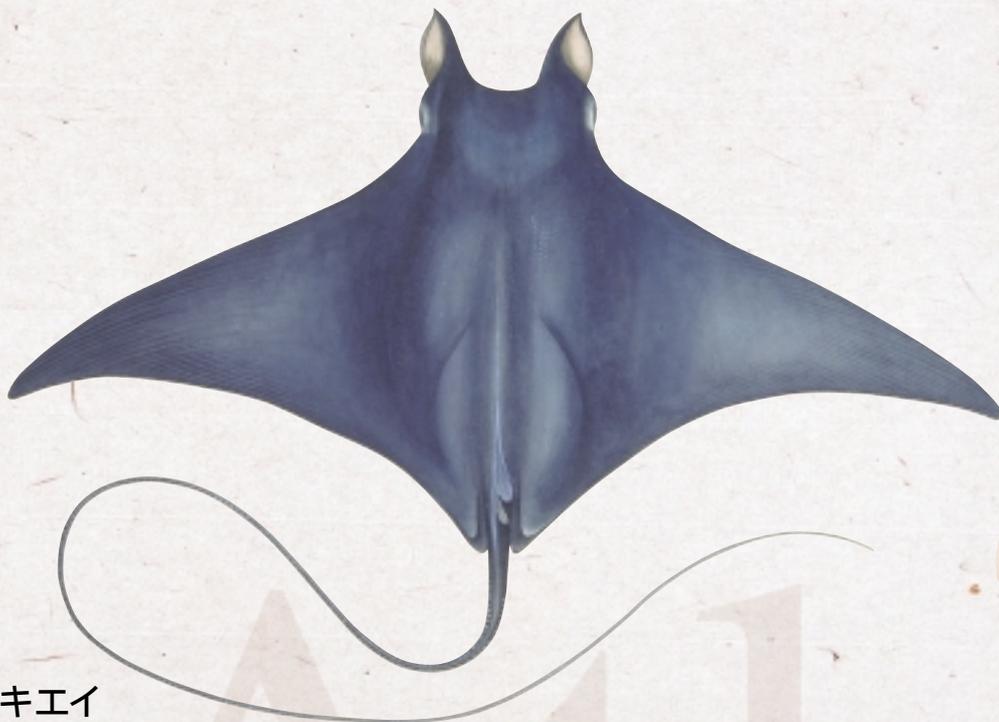
マサバ
Scomber japonicus

画家：萩原魚仙
熱帯、亜熱帯海域などに分布。沿岸性の回游魚。旋網、釣入、定置網でとられる。秋はとくに美味。



ナガサキトラザメ
Halaelurus buergeri

画家：小田紫星
細長い小型のサメ。長崎方面だけでなく、小樽、高知、台湾、インド沿岸などにも分布。かまぼこの原料になる。



イトマキエイ
Mobula japonica

画家：萩原魚仙
南日本の沿岸から沖合いにすみ大型のエイ。全長3m、500kgを超えるものも多い。かまぼこの原料になる。

ハナチゴオコゼ

Kanekonia florida

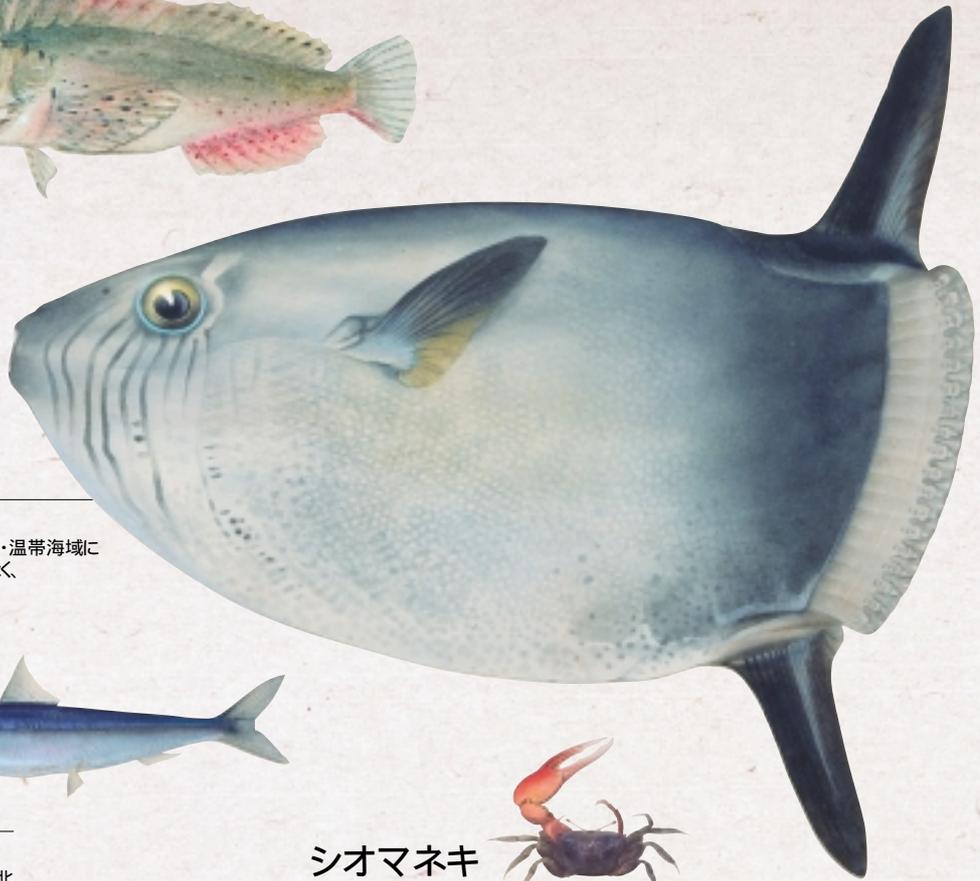
画家：中村三郎
内湾性の小魚。目の後方から背びれがはじまり、体に鱗がないのが特徴。長崎地方及び高知のみで知られる貴重種。



クサビフグ

Ranzania laevis

画家：長谷川雪香
マンボウ科の魚。世界の熱帯・温帯海域に広く分布。体は厚みがあまなく、全長1mに達する。



ウルメイワシ

Etrumeus teres

画家：長谷川雪香
世界の温暖水域に広く分布。日本近海では北海道以南の各地、朝鮮半島、中国でみられる。



シオマネキ

Uca arcuata

画家：萩原魚仙
九州、沖縄、台湾、香港などに分布。有明海沿岸では古来、食用の風習がある。塩と唐辛子を混ぜて作るカニ漬は珍味。



キハツク

Diploprion bifasciatum

画家：萩原魚仙
南日本からオーストラリア沿岸、インド洋に分布。厚みがあまなく、派手な色合いが特徴。全長20cmに達する。



ハリセンボン

Diodon holocanthus

画家：中村三郎
世界の熱帯・温帯海域に広く分布。鱗が変形した棘鱗は、フグ類中もっともよく発達し、著しく細長い。無毒。



『日本西部及南部魚類』
Fishes of Southern & Western Japan

図譜

倉場富三郎の『グラバー図譜』

グラバーの息子の偉業

「Fishes of Southern & Western Japan 日本西部及南部魚類」通称グラバー図譜は、明治末から昭和初期にかけての約25年間に、倉場富三郎(Thomas A. Glover: 1870-1945)の手により、長崎で作成・編纂された魚類図鑑です。スウェットランド人の貿易商トーマス・グラバー(Thomas Blake Glover: 1838-1911)を父に持つ富三郎は長崎に生まれました。東京の学習院に進み、卒業後はアメリカのペンシルベニア大学で生物学を2年間学んでいます。帰国後は長崎にもどり、1893年ホーム・リンガー商会・父のグラバー商会の後を引き継ぐかたちで設立された会社(社)の社員となりました。

ホーム・リンガー商会は、1907年に「長崎汽船漁業会社」を設立。専務取締役となった富三郎は、父の故郷イギリスから鋼船トロール汽船を購入。五島沖での操業に成功し、日本における鋼船トロール漁業のパイオアとなりました。

『グラバー図譜』の作成・編纂が始まったのは、ちょうどその頃です。自社の漁船から長崎魚市場に水揚げされる色とりどりの魚介類を見て、生物学の基礎を学んでいた富三郎がそのようなことを思い立ったのは、想像するに難くありません。また、幕末、オランダ商館医師として来日したシボルトの日本研究の名著のひとつである『ファウナ・ヤポニカ』には、画家川原慶賀に描かせた長崎方面の魚譜が収録されていますが、その存在も動機につながったといわれています。



ベニヒシダイ
Antigonid rubescens

画家：小田紫星
三崎以南の南日本、インド西太平洋海域に分布。厚みがあまわない体側が特徴。50～750mの深海にすむ。



ズワイガニ
Chionoecetes opilio

画家：萩原魚仙
大西洋、太平洋の寒海に広く分布。北陸地方ではエチゼンガニ、鳥取地方ではマツバガニと呼ばれる。



イダコ
Octopus ocellatus

画家：長谷川雪香
北海道南部以南の日本各地、東シナ海に分布。最大体長約30cm。食用タコとして、マダコに次ぐ重要な種類。



ホシセヨウボウ
Daicocus peterseni

画家：中村三郎
本州中部以南から南アフリカに分布。全長30cmあまり。ほとんど食用にされることはない。

学術的、美術的価値の高い図譜

イギリス製の大幅のケント紙に描かれたグラバー図譜は、全32集約800図に及びます。大半

(85%)は、魚類ですが、

甲殻類、頭足類も含まれ、さらにはイルカや爬虫類のウミヘビも各1図

収録されています。描いたのは、小田紫星、長谷川

雪香、中村三郎、萩原魚仙、井上寿一という長崎在住の5

人の画家でした。魚の鱗数や棘軟条数など一部に誤りがみられるものの、色彩は正確で描写は精緻です。

また、原図には種の学名や方言での呼び名が鉛筆で記されていますが、これは富三郎が単独で行ったとみられます。

『グラバー図譜』は、魚類の収録数や描写力などが高く評価され、シーボルトの『ファウナ・ヤポニカ』と共に、日本四大魚類図巻のひとつに数えられています。富三郎の死後、遺言により図譜を託された

渋沢敬三氏の判断で、1950年、長崎大学へ寄贈されました。現在、長崎大学

附属図書館本館、長崎市文教町の貴重図書室に保管されています。

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

【日本西部及南部魚類グラバー図譜】
<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/index.php>